

中学3年生「高志学」まちづくりの視点を学ぶ特別講義を実施しました

4月20日(月)、中学3年生を対象にまちづくり福井株式会社の方をお招きし、特別講義を開催いたしました。本講義は、5月14日の校外研修および夏に実施する個人探究のフィールドワークに向け、「問い・仮説・検証」という探究活動のサイクルを体得することを目的としています。当日は、松尾大輔社長自ら登壇され、生徒たちへ熱のこもった講義を展開していただきました。



講義の冒頭では、福井駅前の現状や、まちづくり福井が歩んできた25年間の軌跡についてお話を伺いました。長年積み重ねられてきた街の変化と、その背景にある挑戦の歴史を学ぶことで、生徒たちは自分たちが住む街をより多角的な視点で見つめ直す貴重な機会を得ました。人口減少時代に、質と密度を高めてオリジナリティを生み出すまちづくりの手法は、生徒だけでなく教員にとっても新たな視点の学びとなりました。

講義の後半では、研修に向けて「若者が楽しめるまちづくりとは?」「公共施設を最大限活用するには?」といった6つのテーマが提示されました。生徒たちは今後、班ごとにテーマに関する「問い」を深め、改善に向けた仮説を立てていきます。5月の校外研修では、各施設の担当者へ自分たちのプランを直接提案し、その妥当性を専門的な視点から検証していただく予定です。生徒一人ひとりがどのように街の未来を捉え、どのようなプランを組み立てていくのか、今後の学びの深まりが期待されます。